

2020年度 Unity講座(基礎編)



08回目

講師：幸田 将伍 (@MagurodonDev)

今回の講義の目的

2

- ▶ プログラムを自分で読めるようになる
- ▶ Unityを使って自分が実現したいことをできるようになる
- ▶ 自分一人でもゲームを作成できるレベルになる
- ▶ Unityの活用事例を学び、自分の進路に役立てる
- ▶ 実際のエンジニアがどういった仕事の進め方をしているかを知る
- ▶ ゲーム会社のクライアントエンジニアとして就職できるレベルになる

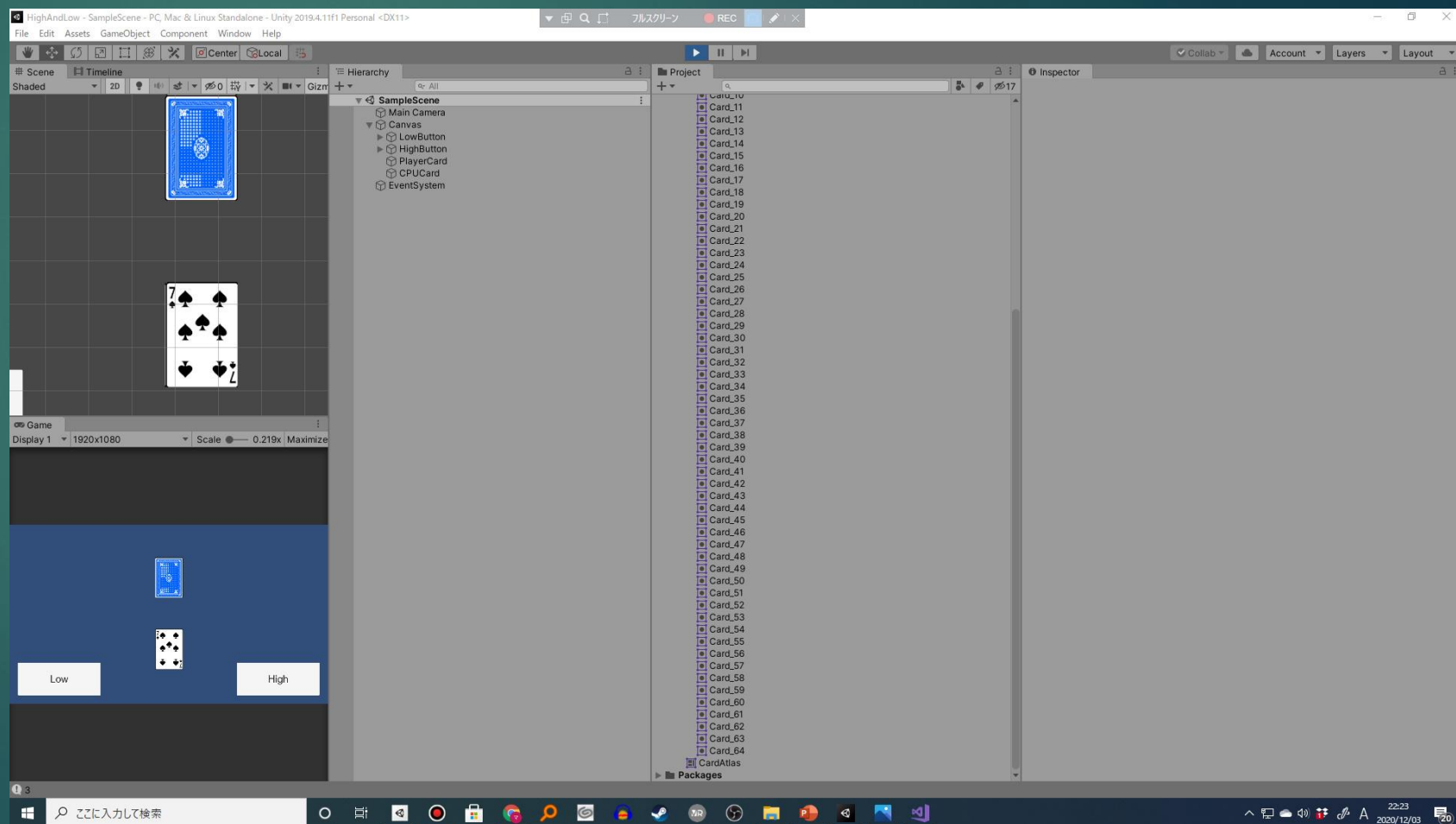
一緒にレベルアップして行きましょう！

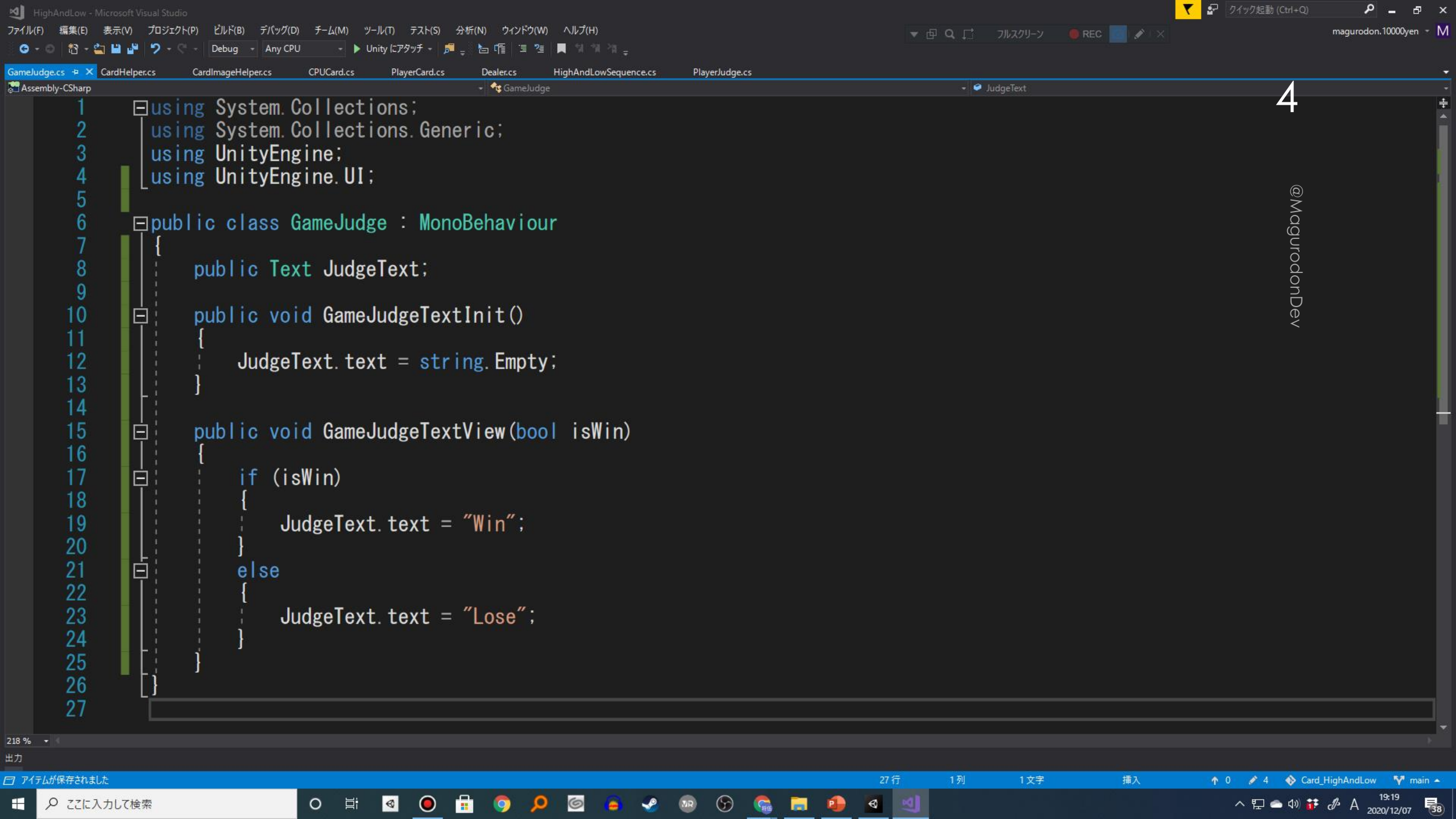
Unity

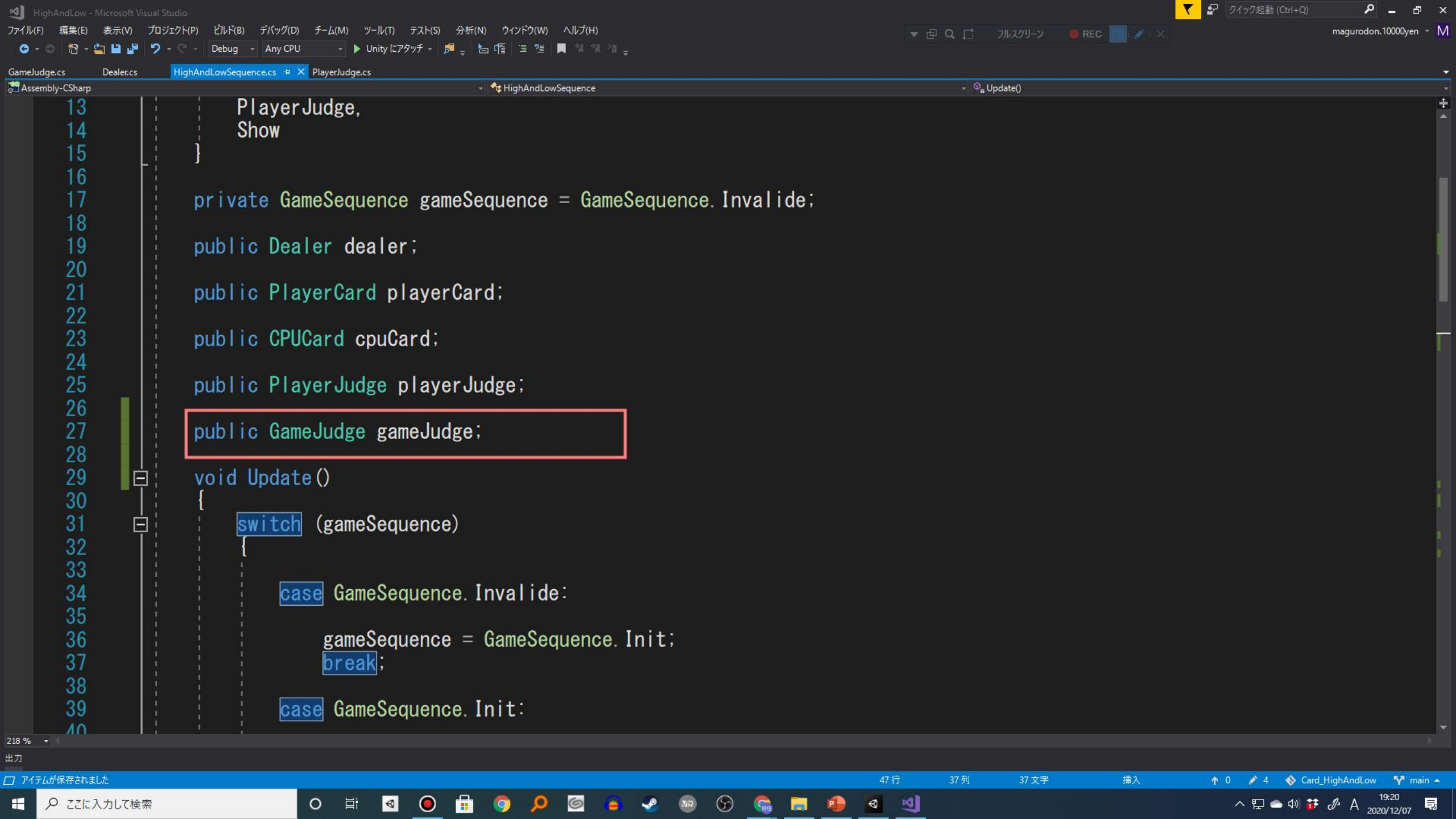
ハイアンドロー

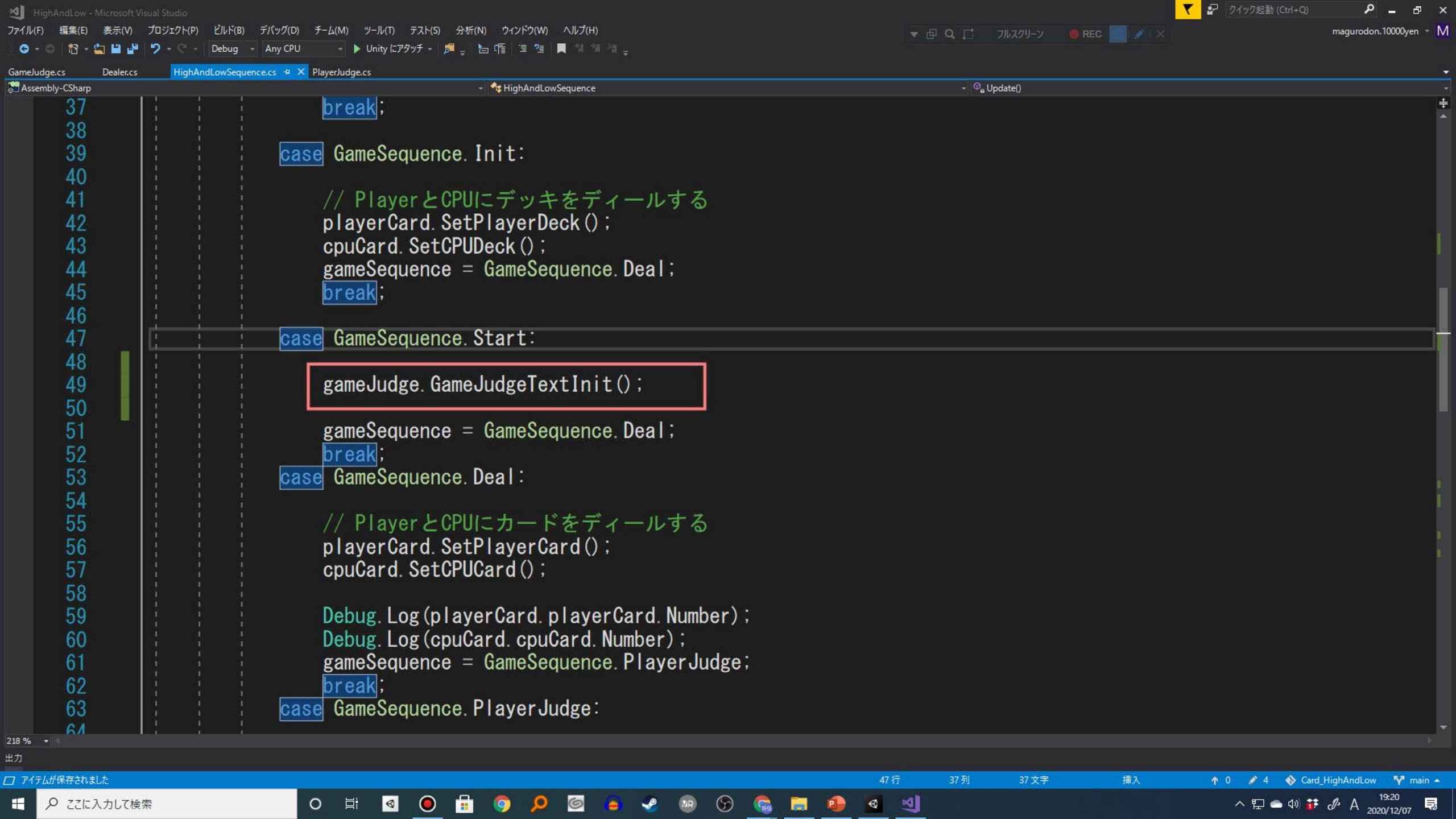
3

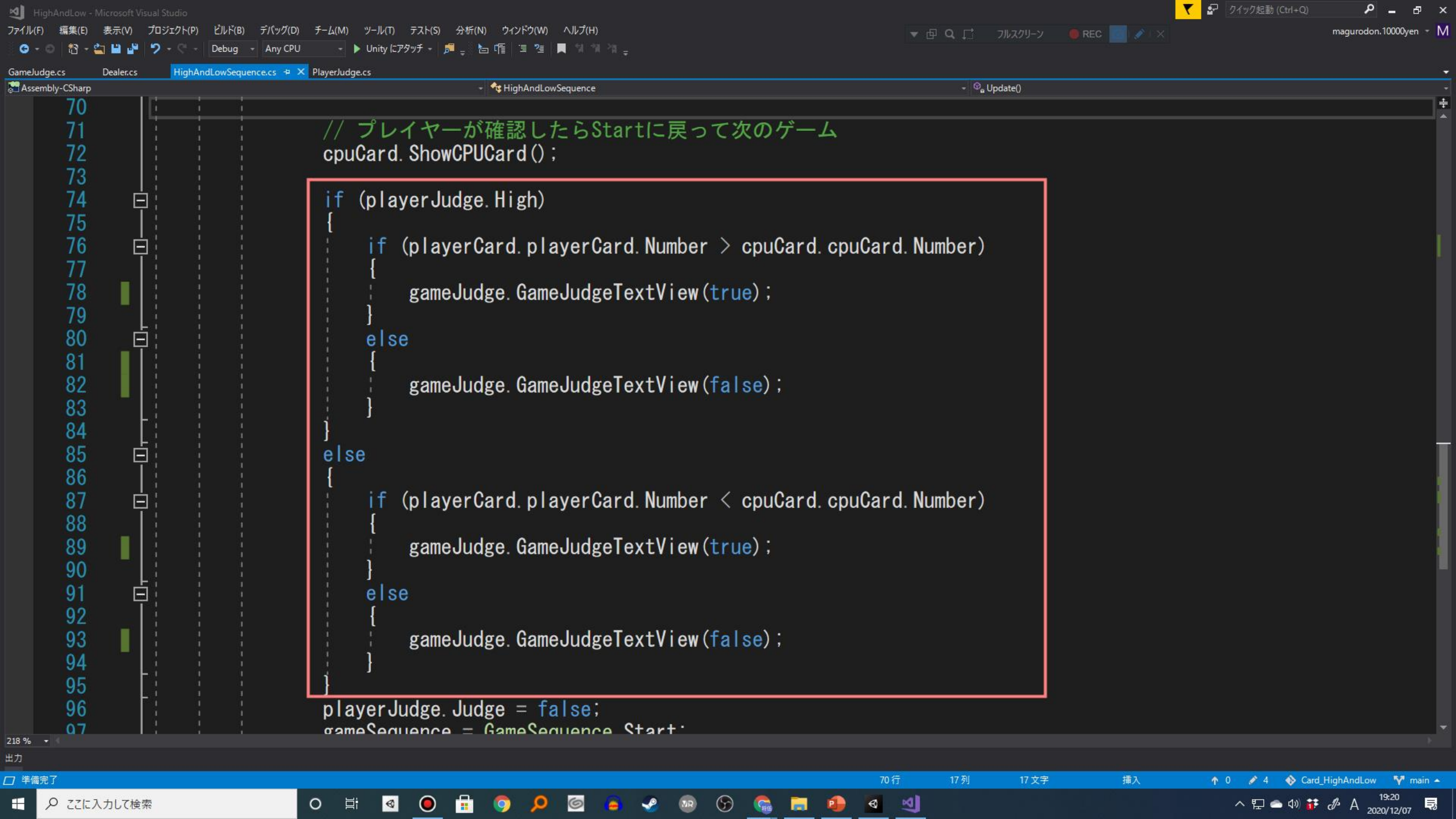
- 先週は、基本的なゲームの流れを実装することができました
- そして、“Win”と“Lose”を表示するGameJudge.csを作成します
- そこから書いていきましょう
- もうすでに書いてある方は、次にすすんでいただいても大丈夫です
- 書き終わったら、HighAndLowSequence.csに追記していきましょう









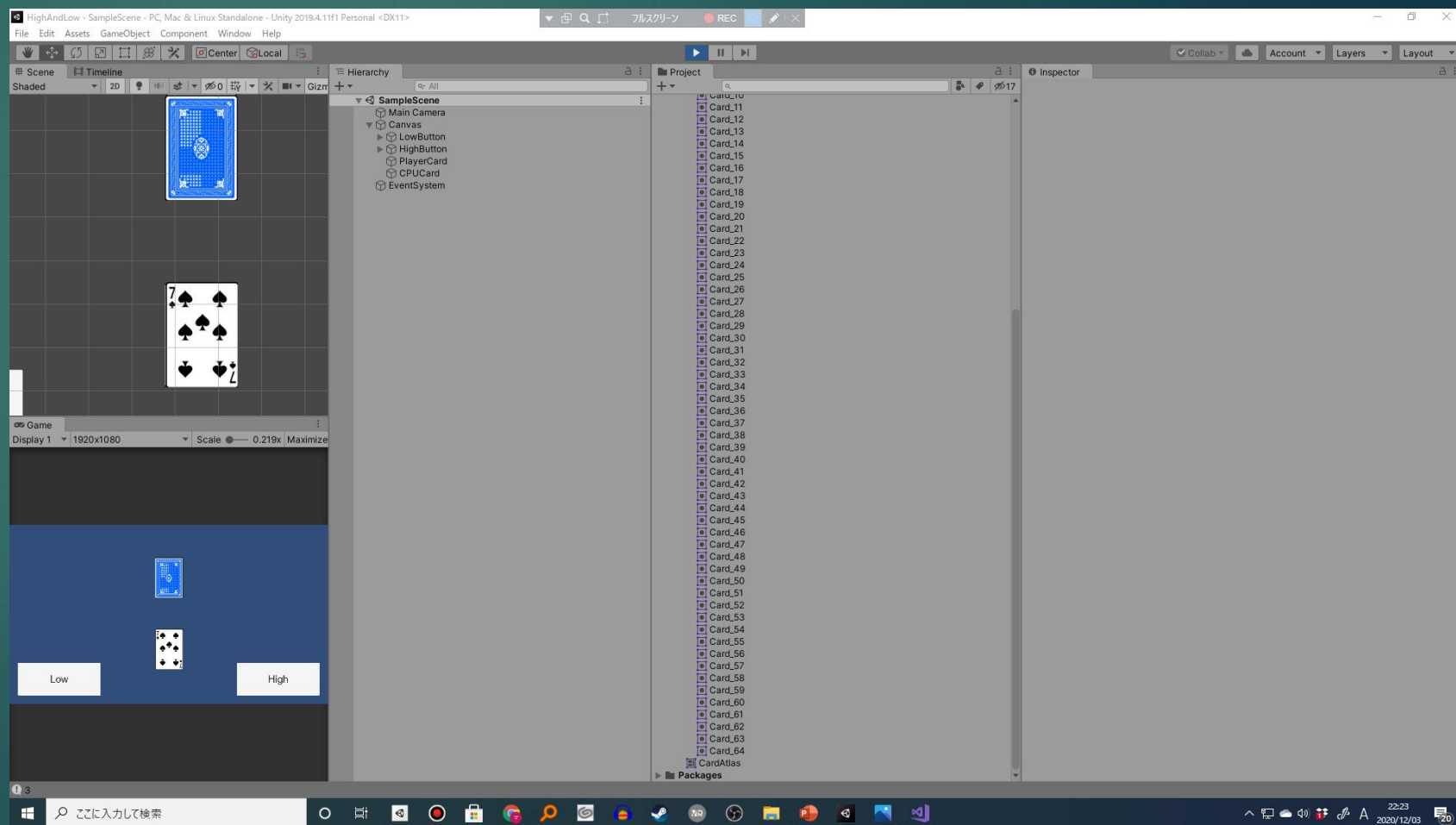


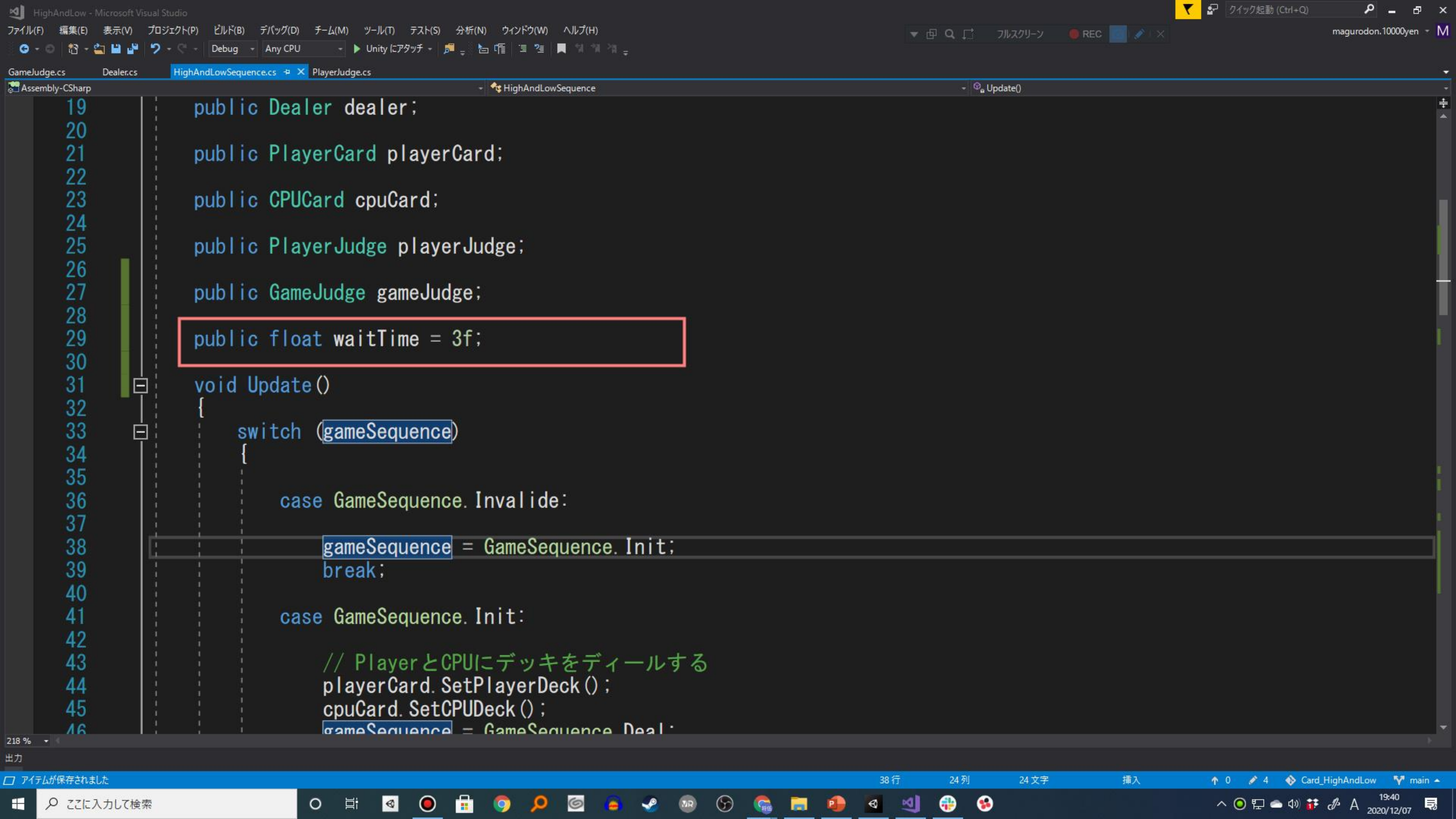
Unity

ハイアンドロー

8

- Unityを設定をして、実行してみましょう
- 表示はできたと思うのですが、一瞬で消えてしまっていると思います
- ここでは処理を待ちたいですね。
- 何パターンか書き方がありますので、覚えていきましょう
- HighAndLowSequence.csにまづ、待つ時間の変数を作成します

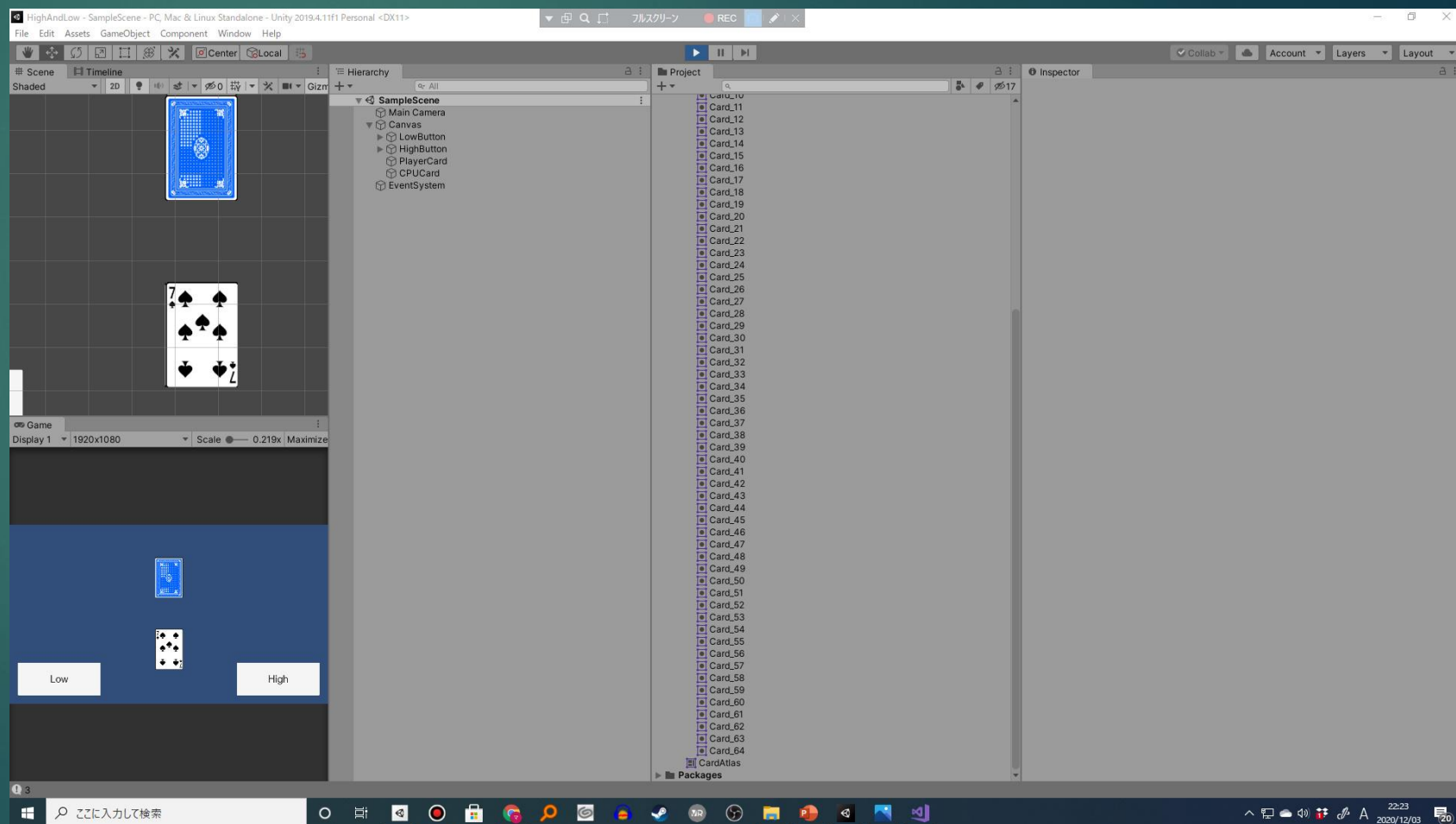


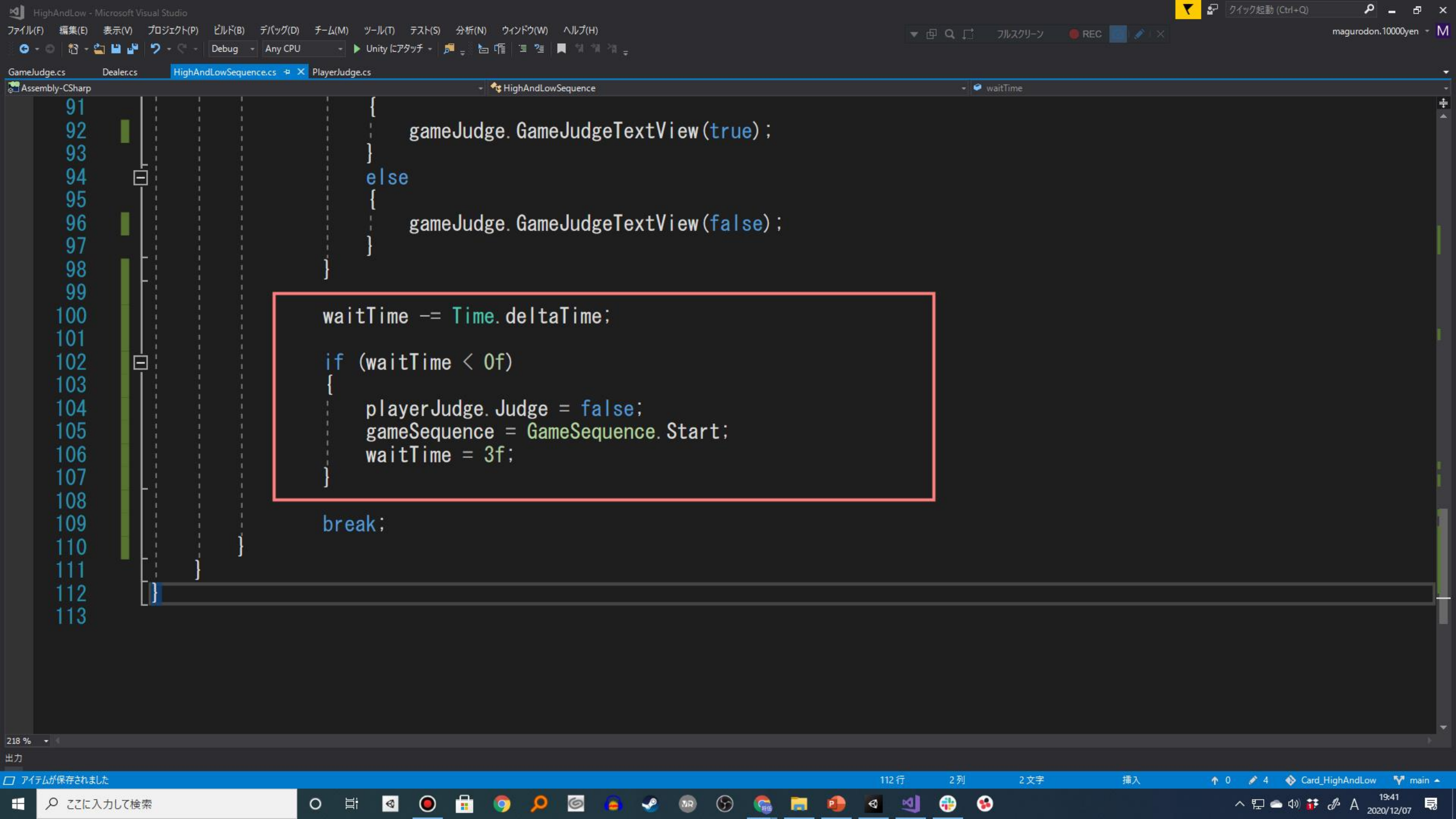


Unity

ハイアンドロー

- 一つ目の方法はRollABallの時に
もやったと思いますが、Time.
deltaTimeでフレームとフレーム
の間の時間を減算していく方法
があります
- スタンダードな方法です
- 時間等で待ちたいときはこの書
き方をすればよいでしょう



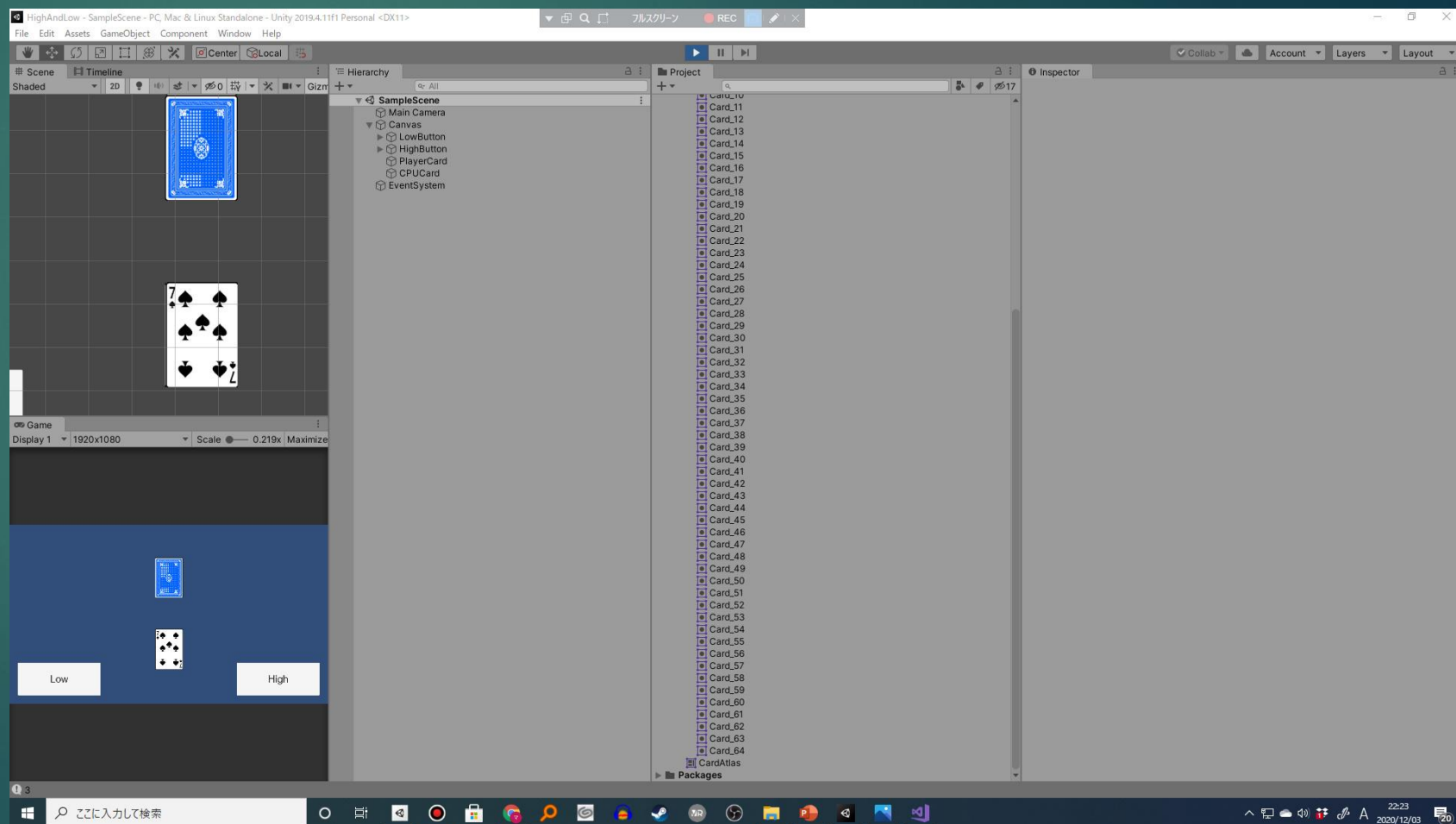


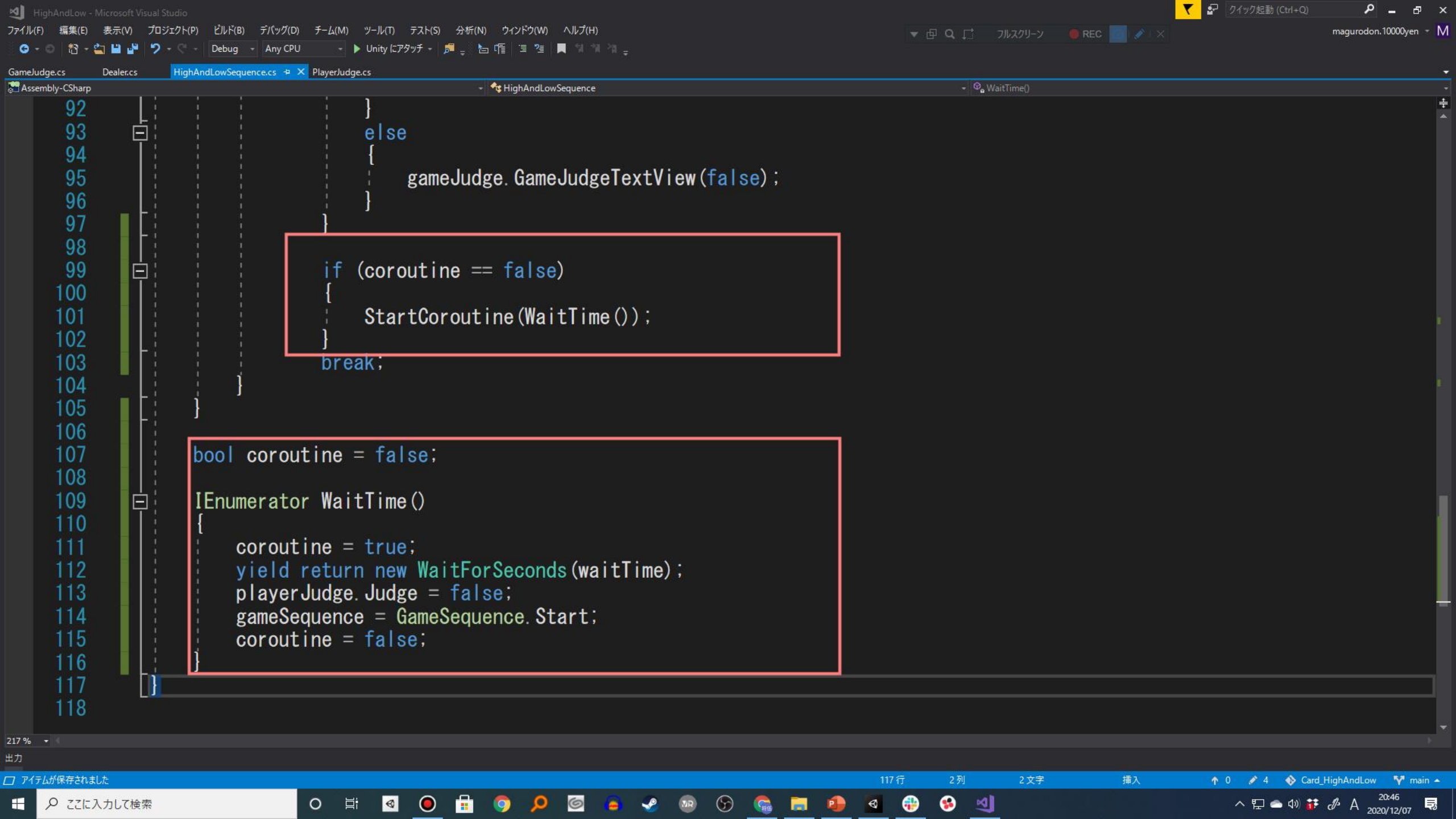
Unity

ハイアンドロー

12

- プレイしてみると3秒待たれていることが分かります
- 2つ目の方法はコルーチンを使うという方法です
- これもスタンダードな方法です
- 時間だけではなく、フラグでも待ちたい時に推奨される書き方です
- (今回はあまり良い例ではないのですが、力技でコルーチンを動かしてみます。またどこかで良い例が出てくるので、待ち方だけ覚えておいてください)

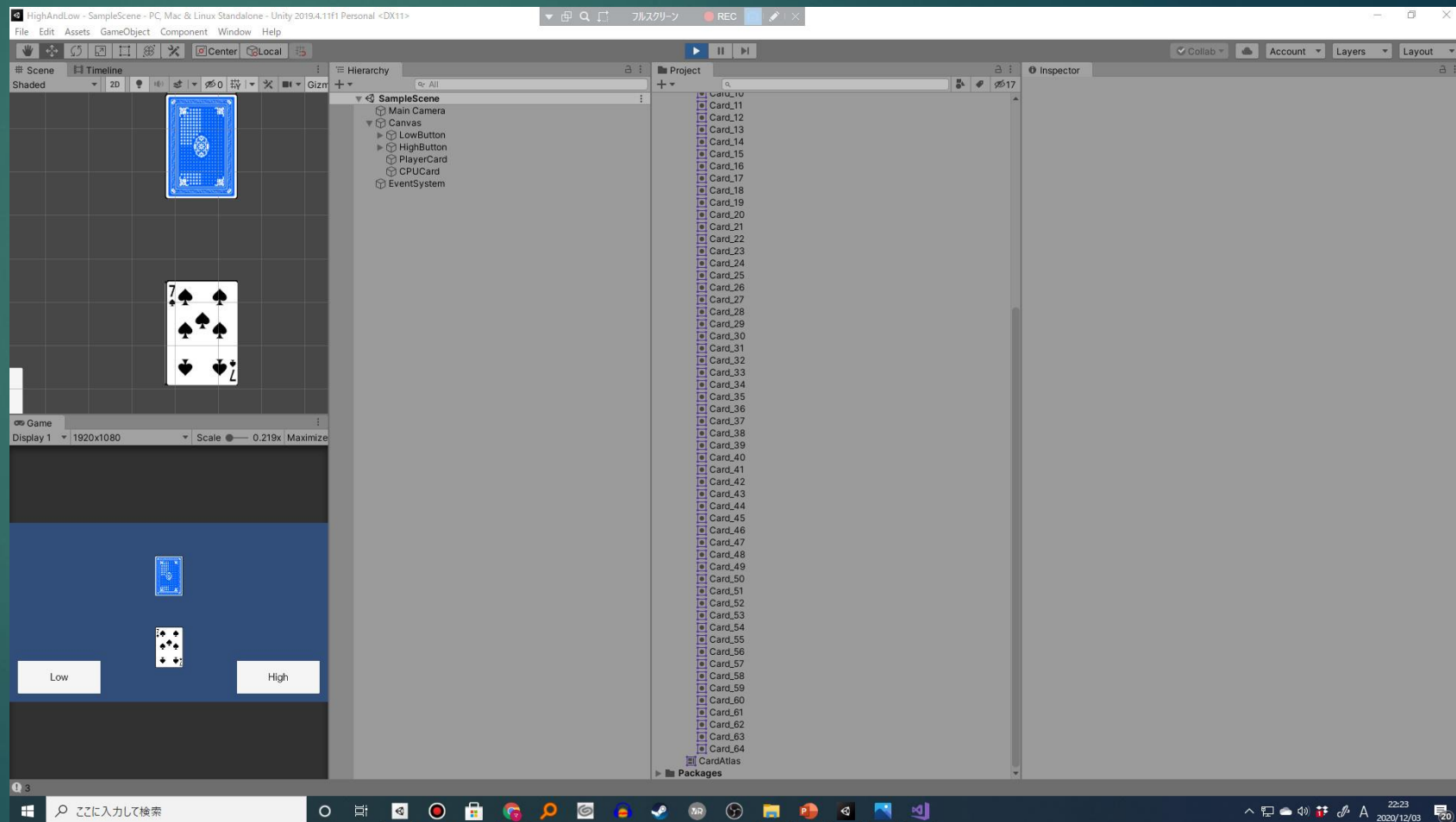




Unity

ハイアンドロー

- プレイしてみると3秒待たれていることが分かります
- ※Yield Return New hoge hoge
- Hoge hogeの部分には、Coroutineが持っている様々な待ち方が入ります
- 実際のゲーム業界の現場では通信待ち等に使われています
- ではtime.deltaTimeを使う待ちに戻しておきます

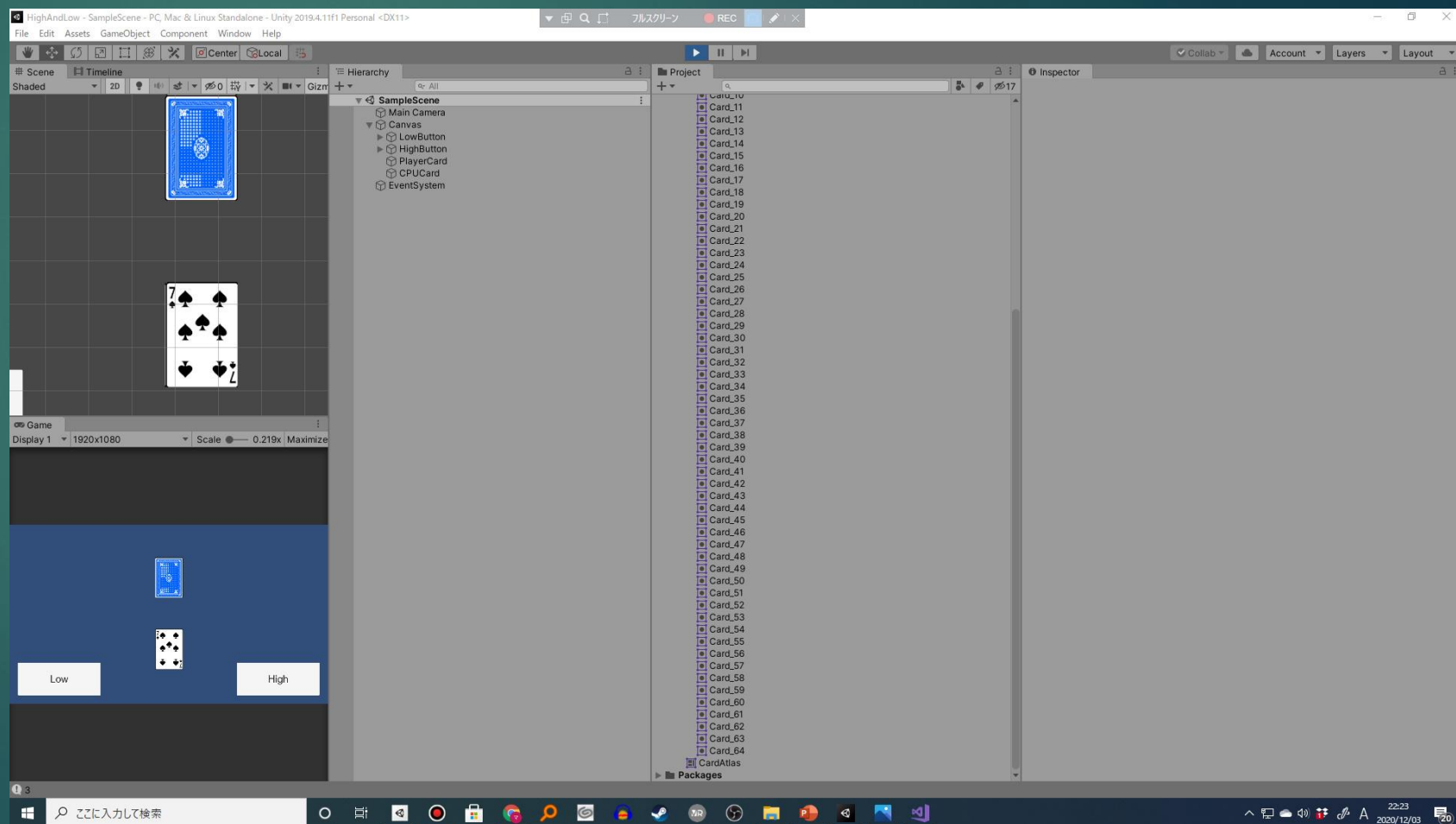


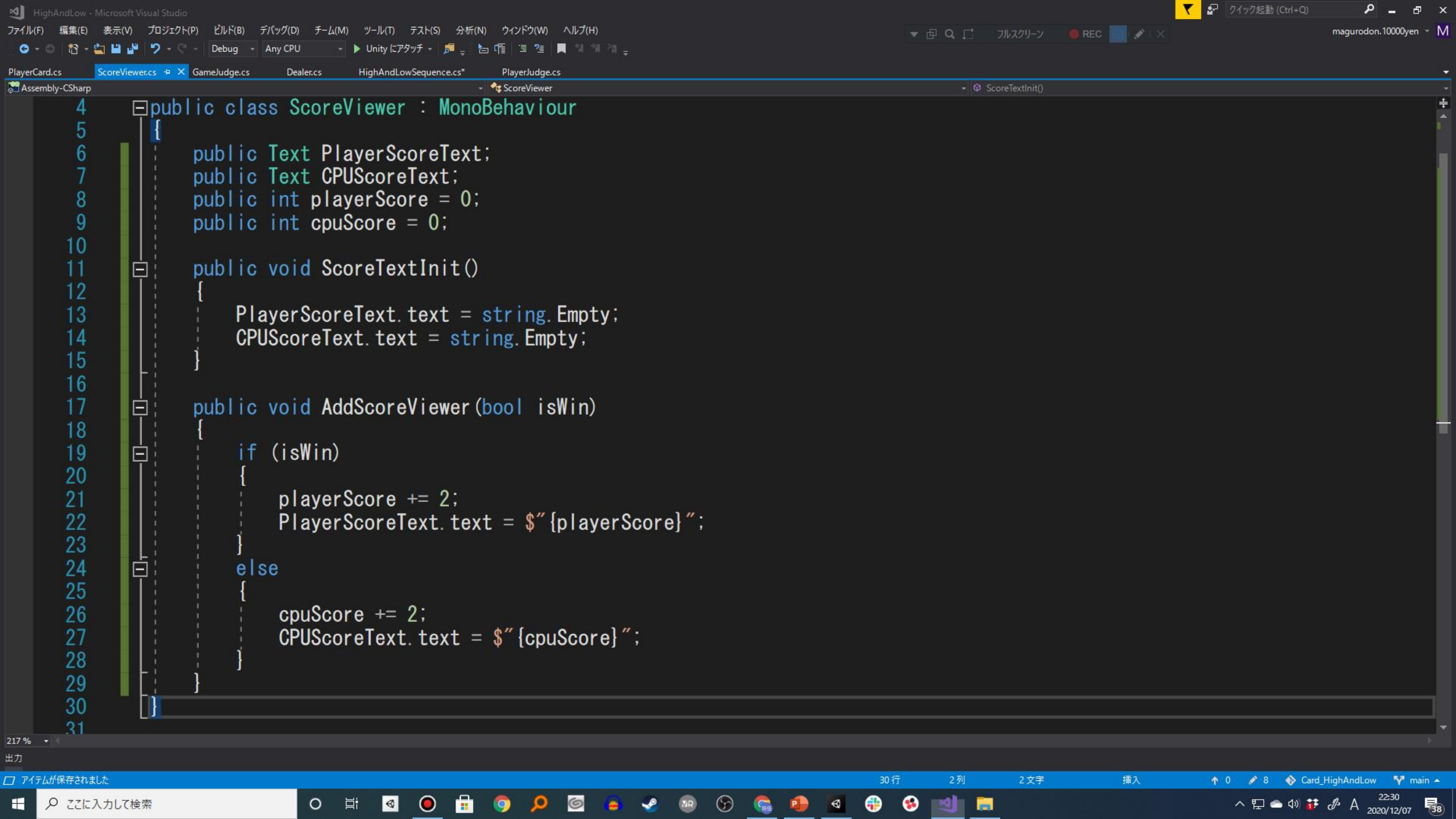
Unity

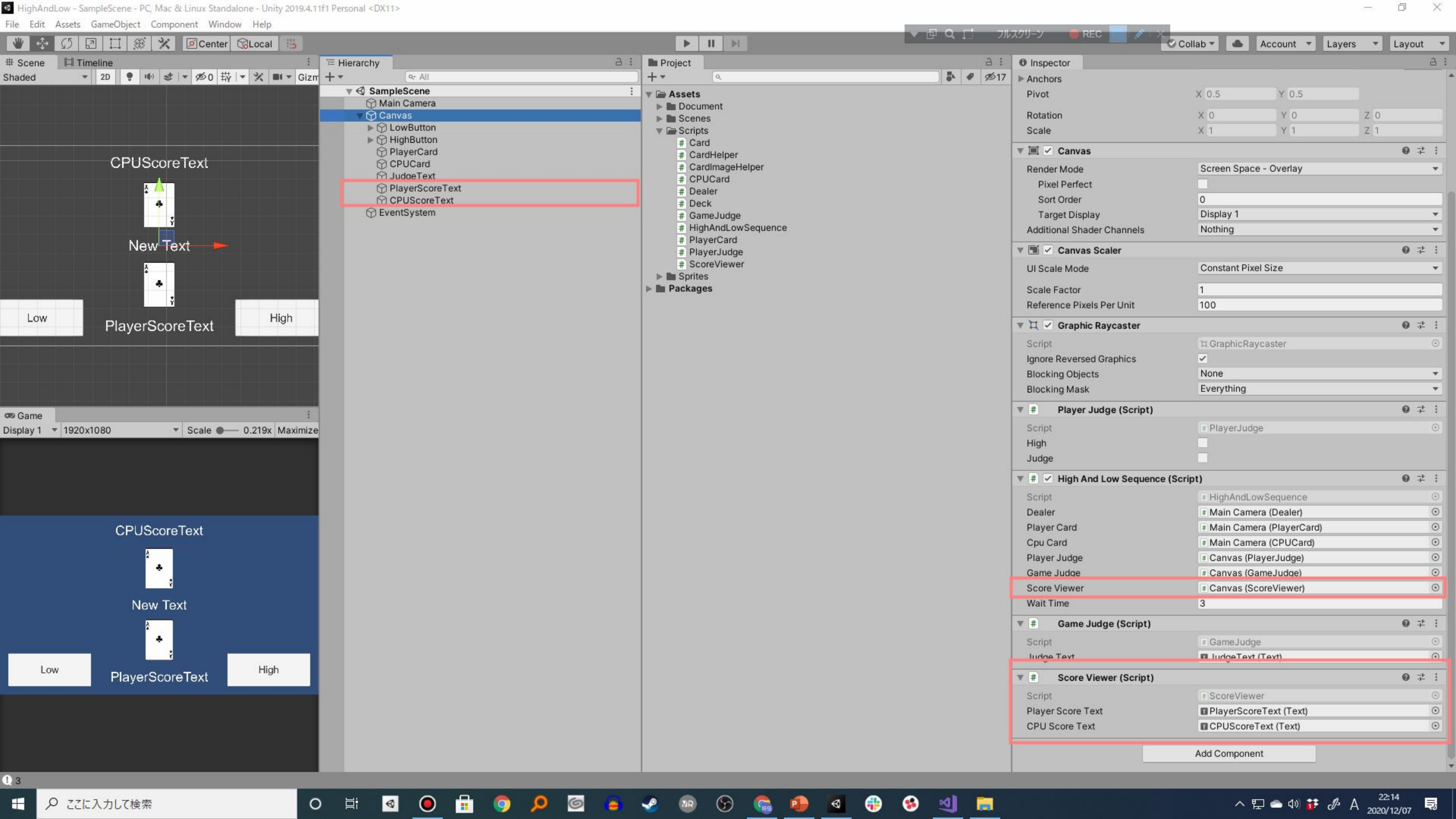
ハイアンドロー

15

- では、スコアを表示していきましょう
- 自力で頑張ってみてください
- Winになった時に2枚加算される
といった感じです
- 負ければ、CPU側に2枚加算され
ます
- それをUIに表示するところまで
やってみましょう
- ①ScoreViewer.csを作成し、
WinならばPlayer側のTextに2枚
つつ加算されるメソッドを作り
ます
- ② ScoreViewer.cs内に、Loseな
らばCPU側のTextに2枚つつ加算
されるメソッドを作成します
- 最後にUnityで設定してみましょ
う





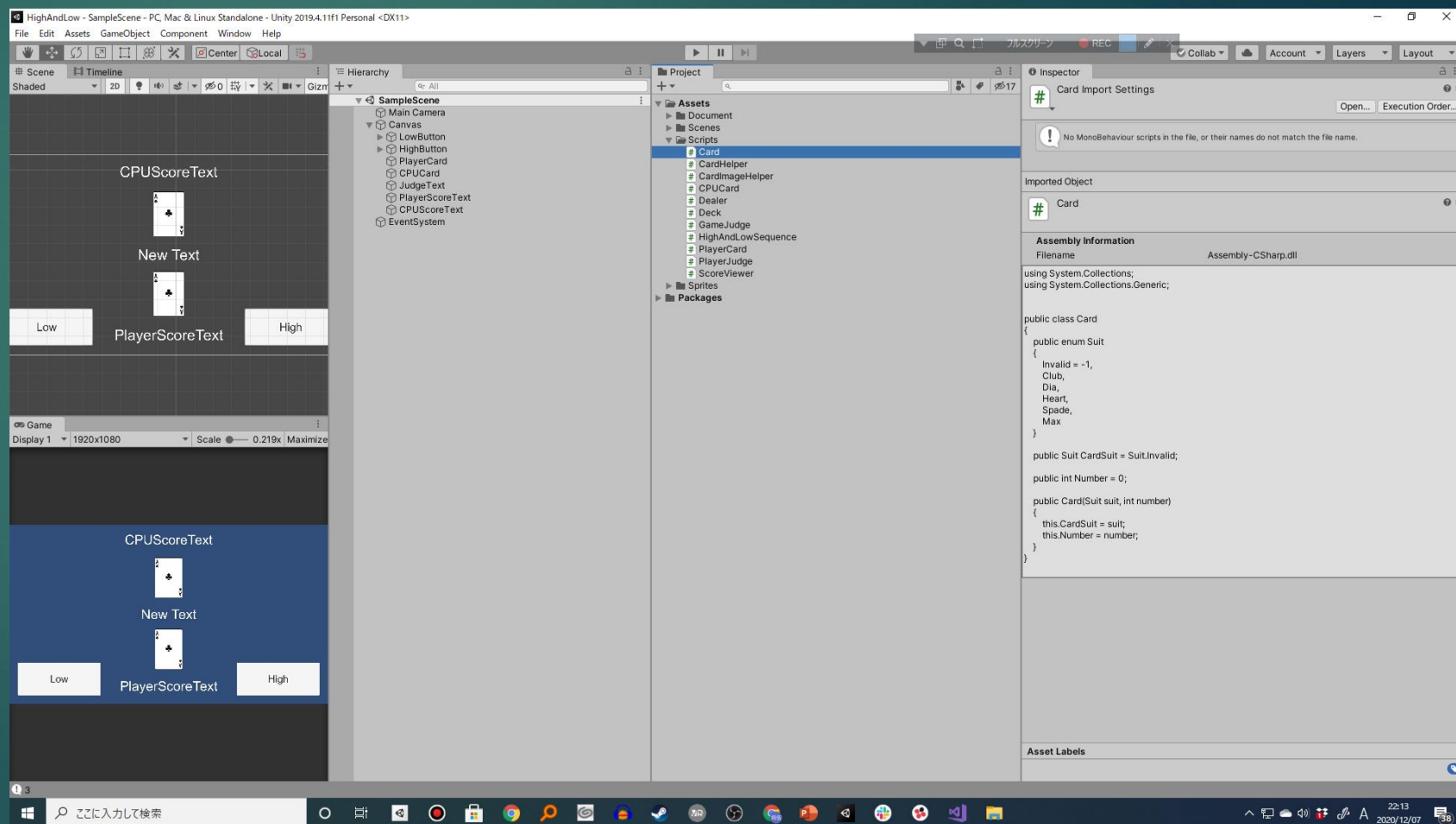


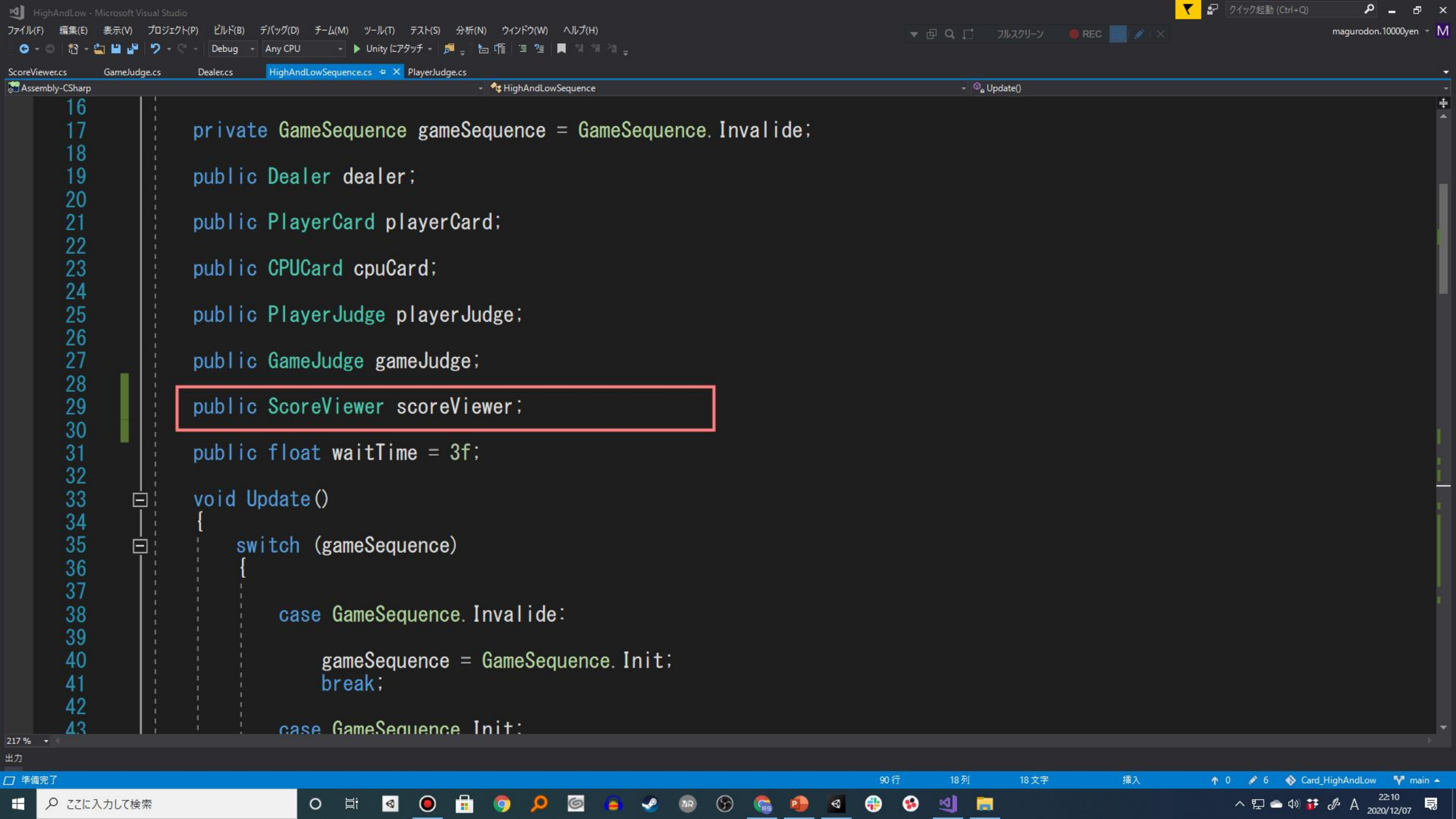
Unity

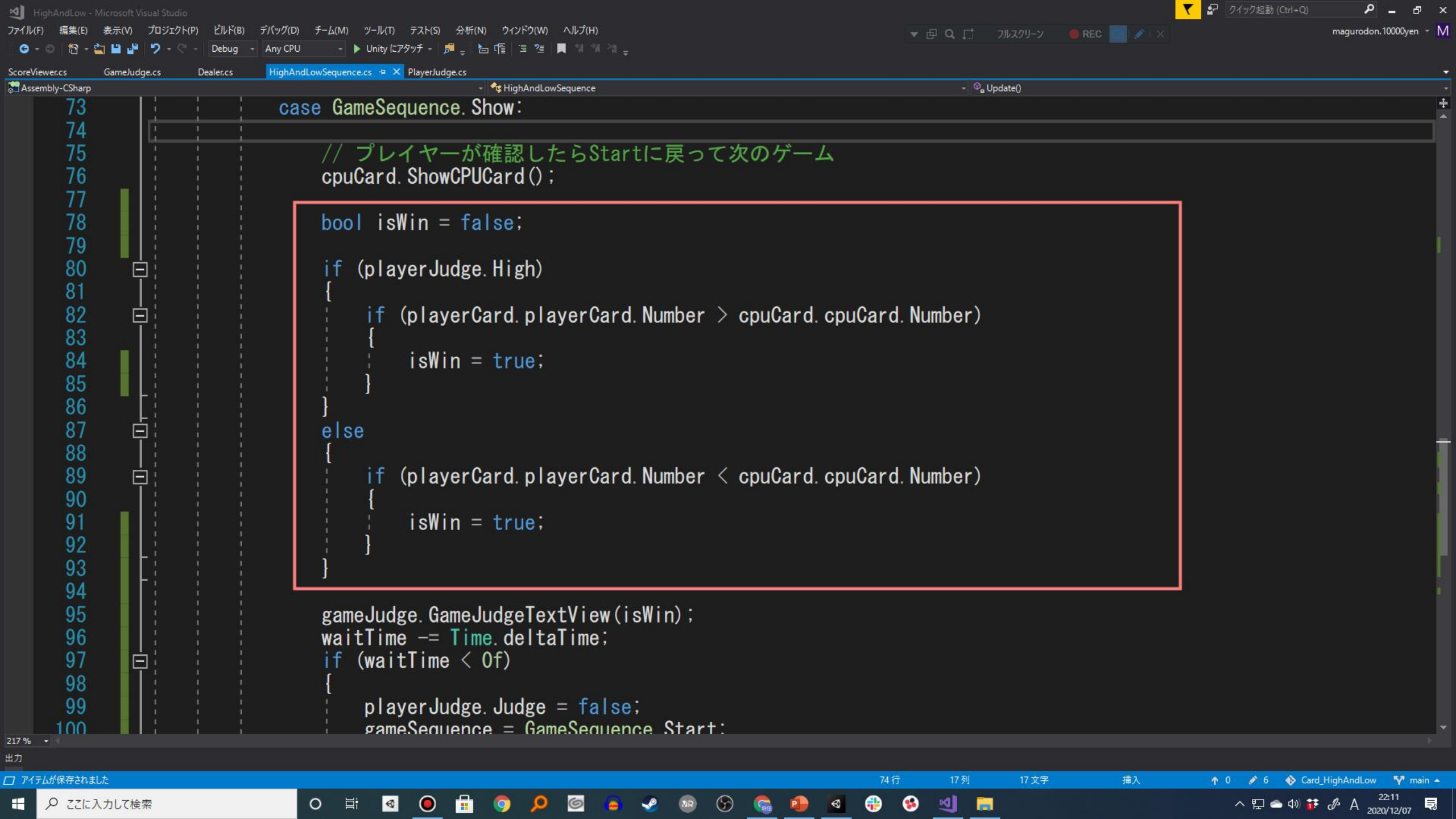
ハイアンドロー

18

- 今のままだと、なんらかの不具合やバグっぽい挙動が出ると思いますので、このあたりでリファクタリングを行います
- ※リファクタリングとは
- 記述したコードを読みやすく、また、保守しやすく書き換える行為です
- 基本的には同じような処理を二回以上書いている場合、リファクタリングを試みてください





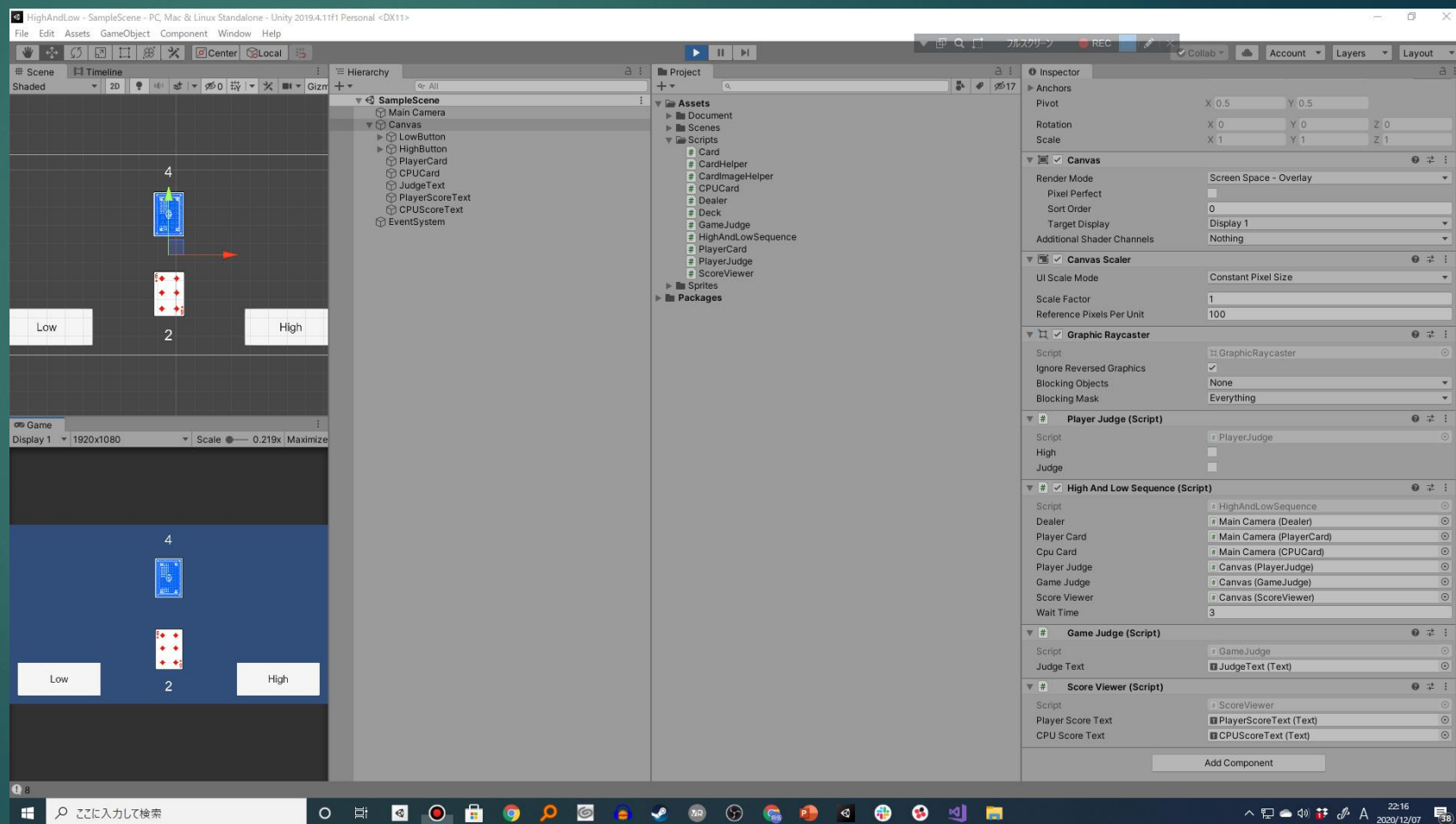


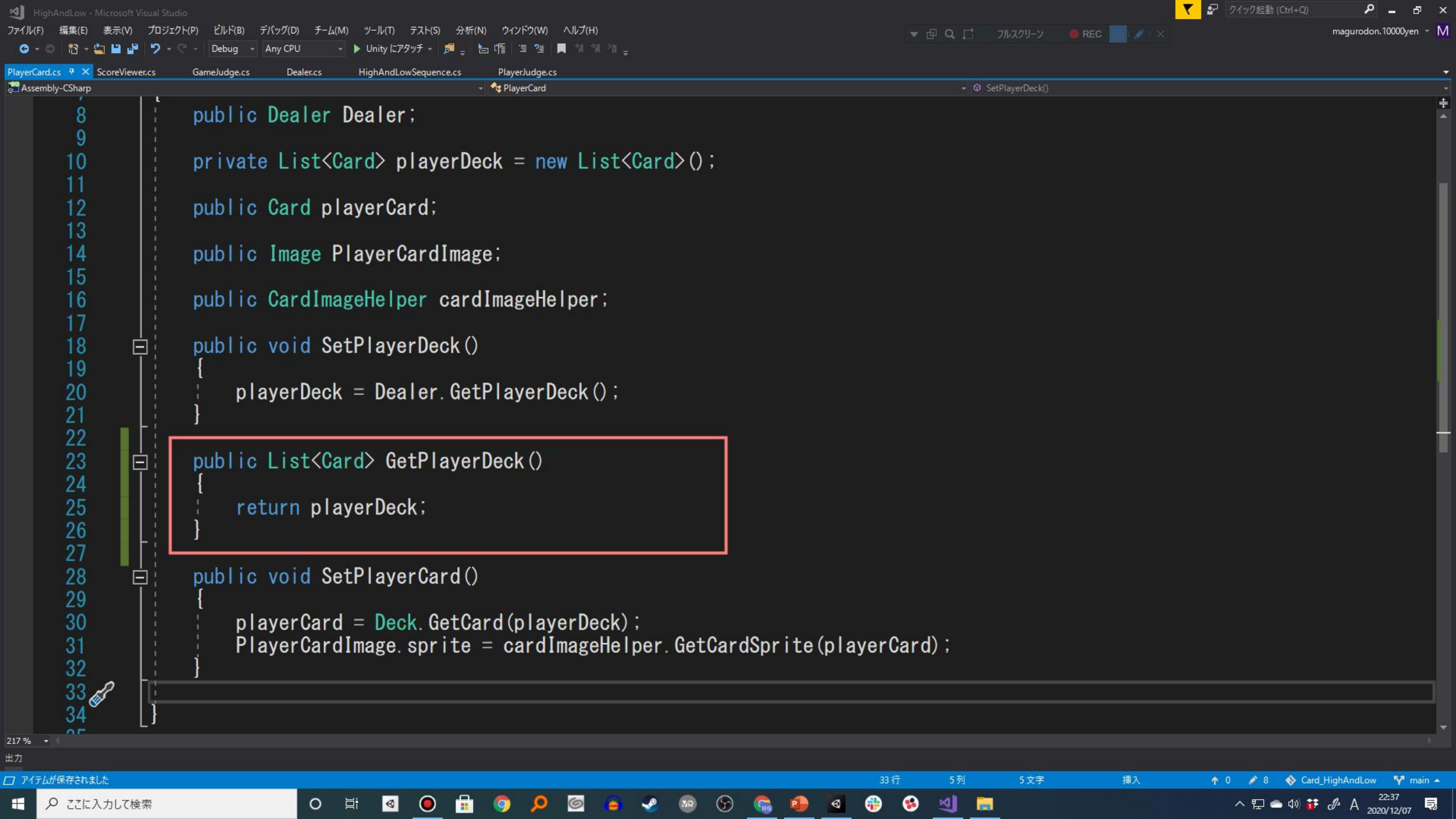
Unity

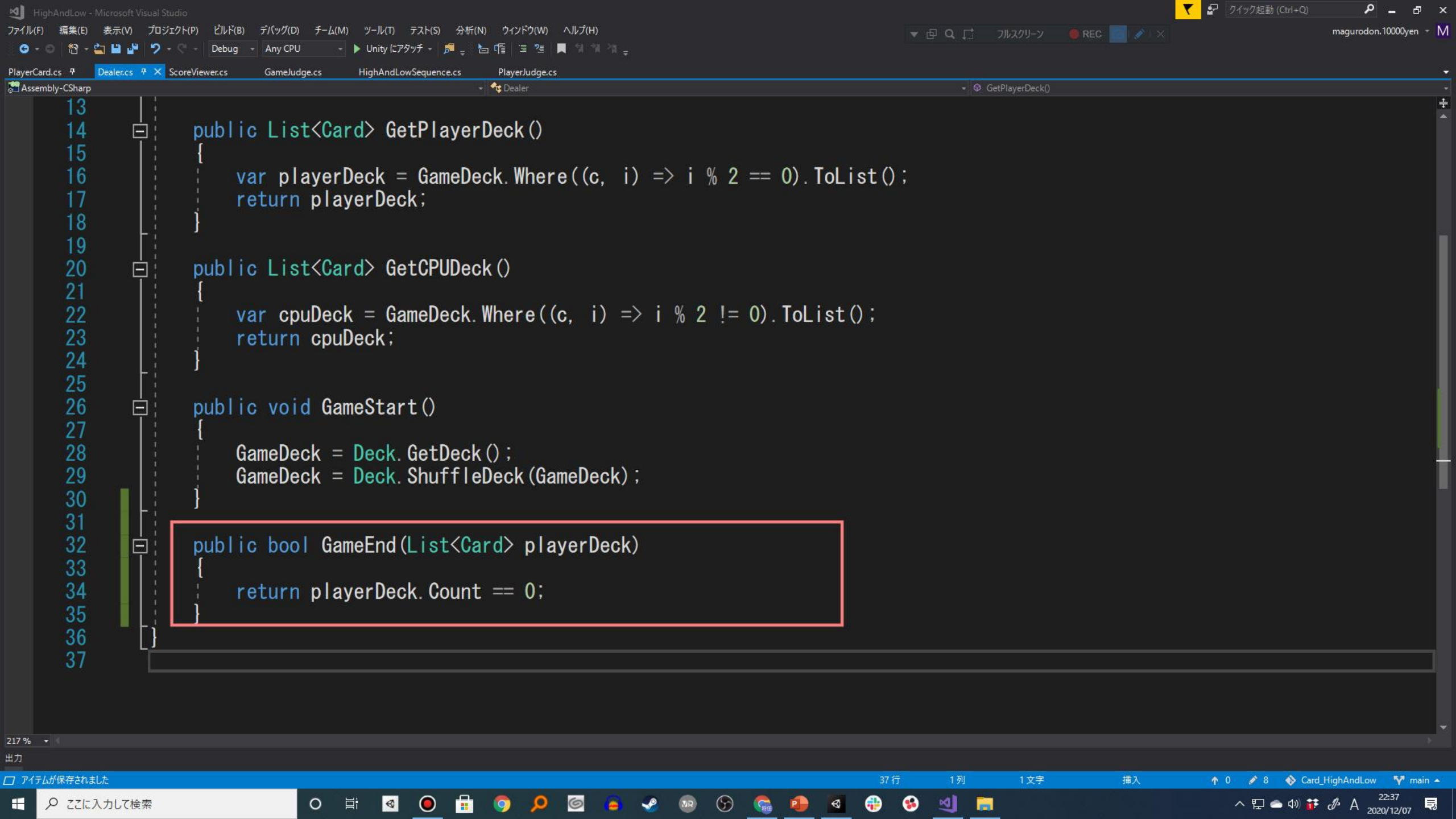
ハイアンドロー

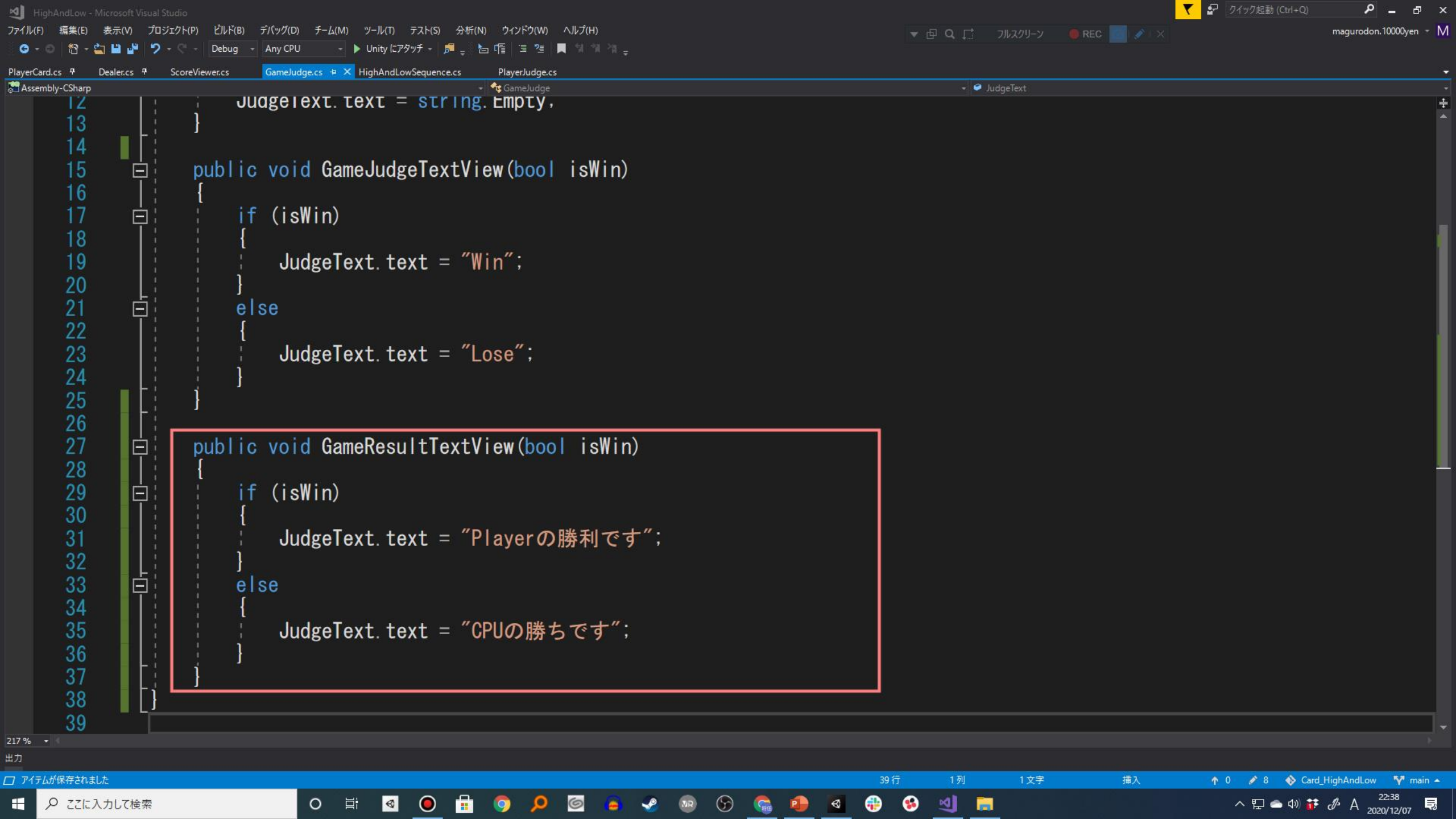
22

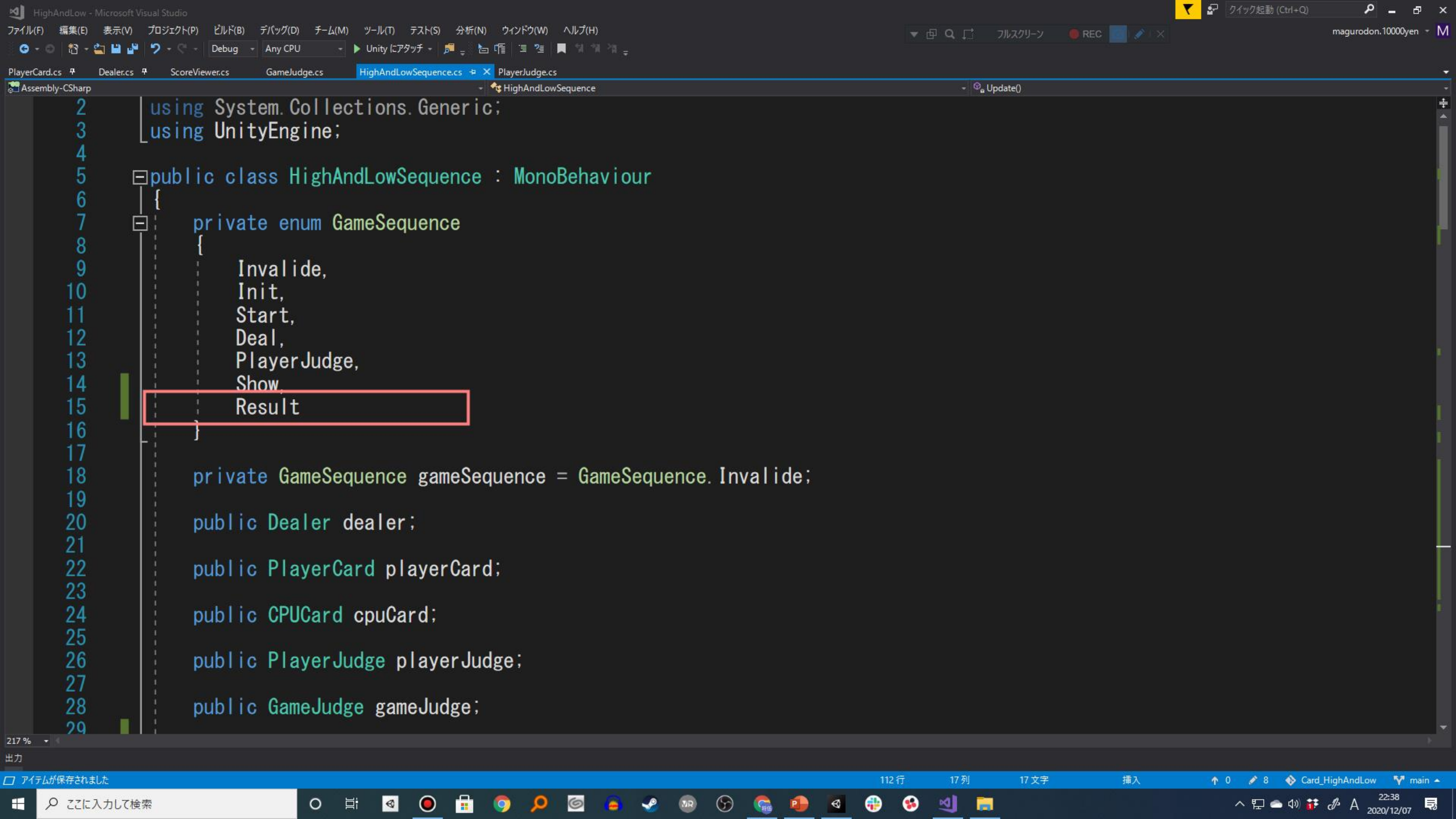
- ここまでできれば、あとはゲームの終了条件を整えてあげれば、ゲームのシーケンスとして完璧に回ることになります
- 終了条件は1デッキ52枚全て使いきった場合、最終結果をJudgeTextに表示します
- PlayerCard.cs
- Dealer.cs
- GameJudge.cs
- HighAndLowSequence.cs
- 上記スクリプトに変更を加えていきます

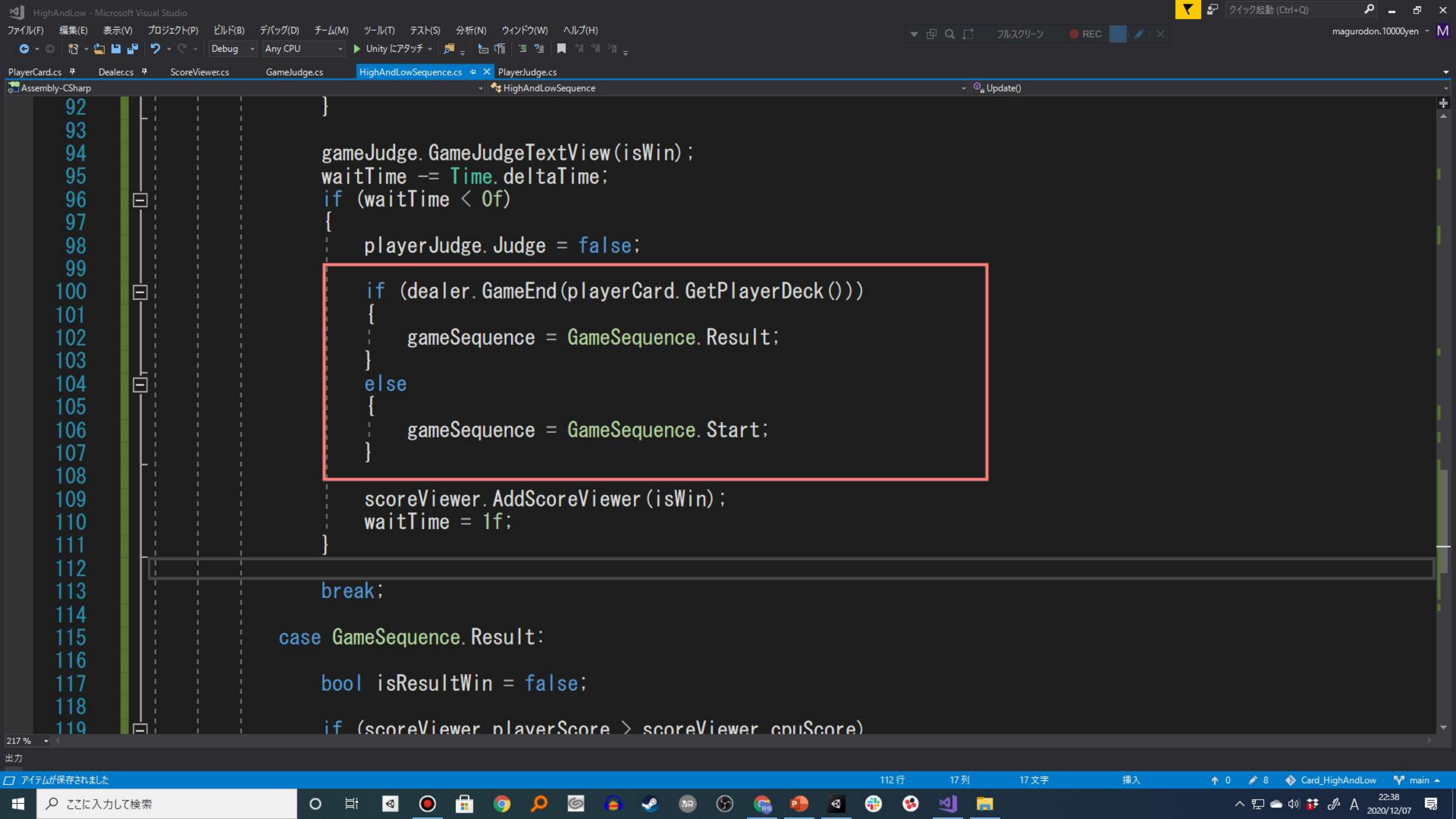






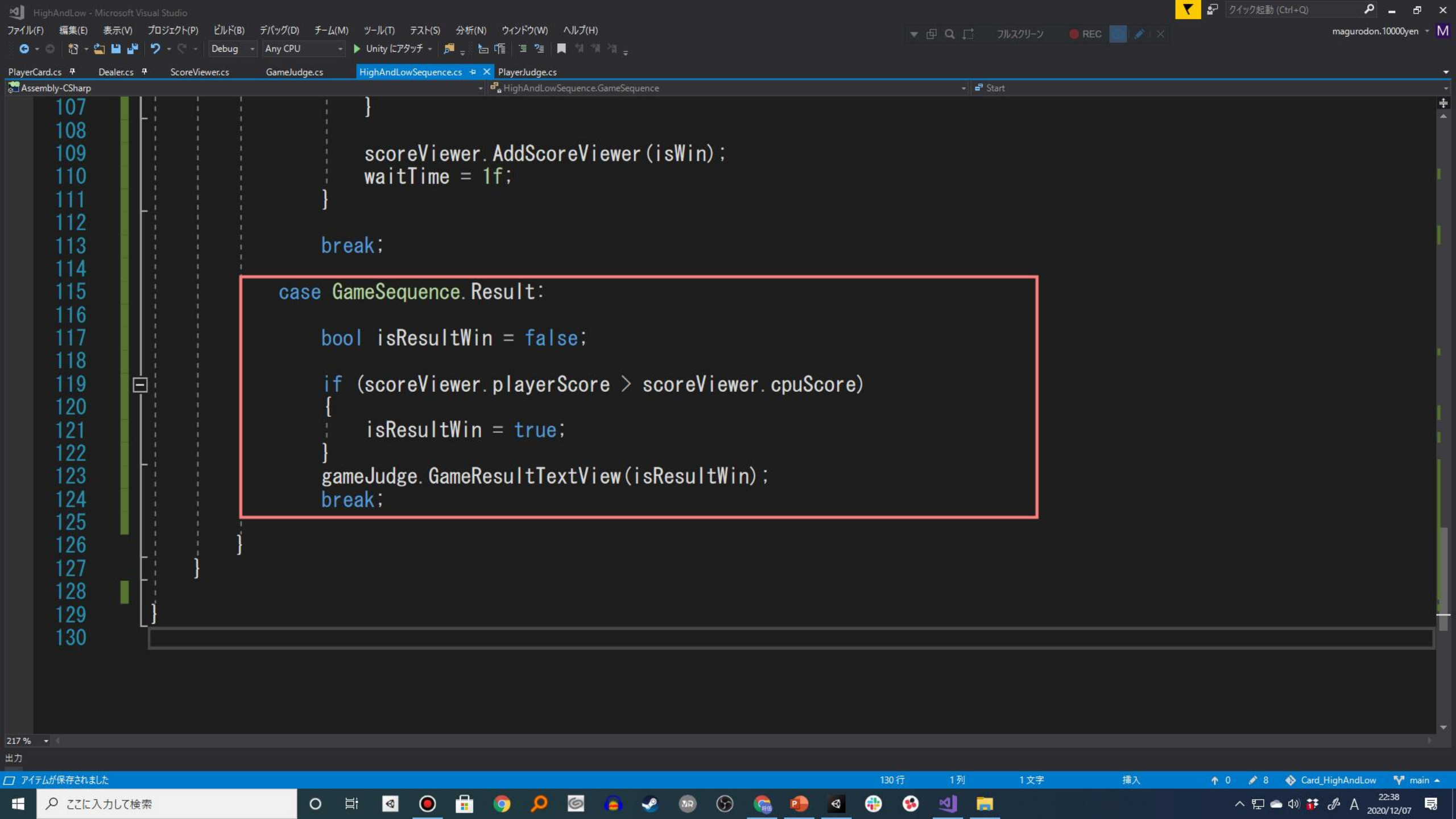






```
HighAndLow - Microsoft Visual Studio
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) プロジェクト(P) ビルド(B) デバッグ(D) チーム(M) ツール(T) テスト(S) 分析(N) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
Debug Any CPU Unity にアタッチ
PlayerCard.cs Dealer.cs ScoreViewer.cs GameJudge.cs HighAndLowSequence.cs PlayerJudge.cs
Assembly-CSharp HighAndLowSequence Update()

92 }
93
94 gameJudge.GameJudgeTextView(isWin);
95 waitTime -= Time.deltaTime;
96 if (waitTime < 0f)
97 {
98     playerJudge.Judge = false;
99
100     if (dealer.GameEnd(playerCard.GetPlayerDeck()))
101     {
102         gameSequence = GameSequence.Result;
103     }
104     else
105     {
106         gameSequence = GameSequence.Start;
107     }
108
109     scoreViewer.AddScoreViewer(isWin);
110     waitTime = 1f;
111 }
112
113 break;
114
115 case GameSequence.Result:
116
117     bool isResultWin = false;
118
119     if (scoreViewer.playerScore > scoreViewer.cpuScore)
```



Unity

ハイアンドロー

29

- ここでScenesフォルダ内にGameLaunchシーンとGameResultシーンを作成します
- あとはRollABallの時の思い出していただきます
- GameLaunchシーンでゲーム本編へ
- ゲーム本編が終わればGameResultシーンへ行ってください
- 実習です

